

MODERN VS CLASSIC

“モダン”と“クラシック”のルーツを探れ！
ロングボーディングについての考察

現代のロングボード・レーサーの多くは、モダン・クラシックのルーツを探る。その一つのスタイルは、1970年代後半に、サーフボードの形状が引き、板の厚さが薄くなり、長さも短くなり、

MODERN VS CLASSIC



MODERN STYLE +

late **1980s**

それはプロ・ロングボード・シーンと相まって誕生したに等しい経緯もあって、自然とモダンなロングボードから始まったといえる。

1980年代後半には、サーフボードの形状が引き、板の厚さが薄くなり、長さも短くなり、

1980年代後半には、サーフボードの形状が引き、板の厚さが薄くなり、長さも短くなり、

1980年代後半には、サーフボードの形状が引き、板の厚さが薄くなり、長さも短くなり、



マカハにその名を冠する新しいワイアード山脈の、マカハ・パドルも得意にパドル・アウトして行く選手達

マカハの大波に パドルで挑む ビッグ・ウェーバー達

スタンド・アップ・パドル・サーフィンは、ジャンル問わず人気のサーフスポーツとしてさまざまな場面で楽しめる新しいスポーツとして多くの可能性を秘めている。果たしてそのビッグ・ウェーブでの実力は？ その答えは、この大会が証明してくれた。

文：山田 寛 写真：アレックス /
Text: Jun Sato, Photos: Alex Mott

THE
QUICKSILVER
EDITION
KUIKAIKA
CHALLENGE



すごい勢いで進む瞬間、波の裏側にkgにも落ちない、クイックシルバーの最新のパドル

「イ・ガムシヤ、そして、ラステイ・ケアウラナなどを背負った選手達もいる。」
In Ahaia (カウ・イ・ケ) =
stand strong = 強くなる
2008年2月、マカハ・サーフィンのビッグ・ウェーブにおいて、世界初の試みとなるスタンド・アップ・パドル・サーフィンのビッグ・ウェーブ・イベント「クイックシルバーパドル・イノベーション・イカヒカ・チャレンジ」が行われた。大会の参加者は地元ハワイを始め、オアフ島、モロカイ、オーストラリアから集まった20人、ビッグ・ウェーブ・コンテストとして歴史ある「ステイ・アハ・カウ・コンテスト」、同様に、主催者から招待された者の人が参加を許される特別なイベントだ。
優勝賞金は4000ドル。全額がベスト・サーフ・ジュニア・ライフガード基金に寄付される。優勝賞金が全額寄付される代わりに、メイン・ラウンドに出場した選手には必ず3000ドルの

「ビッグ・ウェーブ・スネーク、マカハ・サーフィン・ビーター、オアフ島ウエスト・サイドのサーフィンの聖地、マカハは、スタンド・アップ・パドルの1960年代から世界的なサーフィン・コンテストが行われてきた。伝統ある土地、アレック・ノールが果たした伝説のマカハのビッグ・ウェーブが、人類征服の大業として後世を保持し続けている。」
そして、マカハには多くの伝説的なサーファーが輩出され、伝説のライフガード、バック・アロー、ケウラナ、クイーン・オブ・マカハと呼ばれたレラ・サン、世界チャンピオンのヤン

「スタンド・アップ・パドル、サーフィンのバウキボーンマンは？」
「オービー・サイエスのロングボードに、バラケル・スタニス（脚を平行にする）で立ち、アウトローサーフ・イカヒカ・アレイブ（20名に10名のアレイブがついているもの）のサーフ・パドルで進むサーフィンのスター、スタイン、一般的にはスタンド・アップ・パドル・サーフィン、もしくは「イカヒカ・スタイル・サーフィン、ハワイ語では「波を渡る」カヒカ・ヒカ（カヒ）と呼ばれている。」
そしてクイカヒカで船先向けにサーフィン・レースをするサーフ・ライナーなどのサービスを提供する、ピーナツ・レーンが助けたサーフィン・スタイル・競走客の写真を撮ったり、サーフ・レースの歴史を伝えるために、サーフ・レースを新しいサーフィンのカテゴリーに導いた人がいるが、実際は長年ハワイで流し込まれてきたスタイルなのだ。」
ビッグ・ウェーブ・スネーク、マカハ・サーフィン・ビーター

クイックシルバーのサーフィンは、パドル・サーフィンの歴史を代表するサーフ・マンだ。卓越したサーフ・パドルで、サーフの歴史を代表するサーフ・マンだ。卓越したサーフ・パドルで、サーフの歴史を代表するサーフ・マンだ。卓越したサーフ・パドルで、サーフの歴史を代表するサーフ・マンだ。